

凌霄花（のうぜんかずら）

池松 孝子

凌霄花は、蔓性落葉樹で、霄（そら）を凌（あおぐ）がこの花の由来と聞くと、宜なるかなと納得してしまう花の姿である。また、茎から附着根を出して他の樹木や垣根にからみつき、高いものでは十メートル以上にも上がっていく。「凌霄」は高い所に登るの意もある。そのものの性質を具体的に言い得ていて感心する。橙色の大きな花は盛夏に咲くにふさわしく、力強い。あのような色の服を持っていたとか、花の形がラッパに似ているとか、私の誕生日の花でもあることから殊更愛着を持って眺めるようになった。

花は七月ごろから咲き始めるが、一方でまた毎日、落花する。頂上にふんわり開いたオレンジ色も夏空に映えて美しい。落下すると、まるで絨毯を地面に敷き詰めたかのように花がちりばめられて、それもなかなか見ものである。

のうぜん今の落花に音あらず

三浦 恒礼子

ある夏の日、公園で娘達が一本の高い木にしがみつくようによじ登っている凌霄花の近くで遊んでいた。その下には数えきれないくらいの花が落下していた。落ちた花だけを見ていると気がつかないくらい背の高い木であった。子供達は鮮やかな色の花に夢中になって、一つ、二つと拾い、そのうちスカートを上向きに折り、そこに拾った花を入れ、夢中になって遊んでいた。

そこに散歩中だったのか、ご近所のおじいさんが声をかけてくださった。「この花は大変有毒な花だから触っちゃいけないよ。すぐに捨てて手を洗いなさい」と言いながら娘達のスカートをパタパタと叩いて下さった。また「この花をつついた手で、目に触ると目が見えなくなるからだめだよ」とも。

慌てて帰宅すると、娘たちは怖いものにも出会ったかのように「ごめんなさい」を連発し、悲しい顔をして泣きながら手を洗っていた。それを見るとこちらも少々、慌てた。

私はすぐに花の図鑑や百科事典を調べた。毒性はごく弱く、触るとかぶれる人もいるらしいが迷信だと分かった。